

熊野神社31社が交流

新宮 速玉大社で総会

全国にある熊野神社でつくる「全国熊野会」（会長＝朝日芳英・熊野那智大社宮司）は26日、新宮市の熊野速玉大社で第9回総会を開いた。全国の31社から宮司や総代ら115人が参加し、交流を深めた。

熊野三山が2004年に世界遺産に登録されたのをきっかけに、全国にある約3千社の熊野神社に呼び掛け、賛同した155社で全国熊野会を

発足させた。総会は06年に那智勝浦町の熊野那智大社で第1回を開き、毎年、場所を変えて開いている。熊野地方での開催は3年ぶり、熊野速玉大社では初めて。

総会では熊野三山を遙拝するとともに、東日本大震災や紀伊半島大水害、広島県などの豪雨災害での物故者に黙とうした。朝日会長が「熊野地方は昔から、今でいうパワースポットといわれていた。

（その熊野が）世界遺産に登録されて10年になる。一人でも多くの参拝客が来てもらえればと思う。自然の恵みは神の恵み。いまの天候不順は自然に対する感謝が薄れているからではないかと思う。自然の恵みに感謝したい」と述べた。

講演会もあり、熊野速玉大社の上野顯宮司が「熊野速玉大社の特殊神事」をテーマに話した。夜には那智勝浦町のホテルで懇親会を開いた。27日には那智勝浦町の熊野那智大社と田辺市本宮町の熊野本宮大社も訪れた。



熊野速玉大社に参拝する全国熊野会の会員（26日、新宮市で）